

宮沢地区公民館だより



令和6年1月1日
発行：宮沢地区公民館
電話・FAX22-0433

知恵を出し合い、地域づくりを



宮沢地区区長会 会長 石山洋幸

新年あけましておめでとうございます。

さて、今年辰年です。皆様ご承知の通り辰は十二支の中で最も縁起の良い千支と言われており、様々な願いを叶えてくれるだけでなく【上り龍】と言われ（あらゆる物事を上昇させ、いい方向へ導いてくれる力がある）とされています。従って、今年、宮沢地区におきましては素晴らしい飛躍する年となるようにご期待申し上げる次第です。

さて、尾花沢市内の小学校は、生徒数の減少と教育環境等から令和9年度に小学校1校に統合され、宮沢小学校も閉校になります。閉校になる各小学校の空き校舎の利活用が今後の地域づくりと活性化の大きな重点課題です。そのような観点から11月29日に先進地である遊佐町を区長会と公民館連絡協議会、防犯協会の3団体で現地を視察研修してきました。遊佐町では、「空き校舎利活用基本計画」を策定し、各地区のまちづくり協議会から要望書の提出を頂き、課長会議や空き校舎利活用検討委員会を設置し、その中で検討を重ねてきている内容でした。尾花沢市も今後、空き校舎を有効活用できるように市の施策として検討委員会を設置して進める必要性を感じました。

結びになりますが、宮沢地区の色々な課題について、区長の皆様、地区の皆様のご意見やお知恵をお伺いながら事業を進めて参りますので、本年も宜しくご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

早く、食べたい

【12/10（日）クリスマスケーキ作り】

子ども会主催の親子行事「ケーキ作り」が開催され、14人が参加しました。ベニバズ大崎さんの指導を受けながら、スポンジケーキに生クリームを平らに塗っていました。その上に、生クリームを絞り出す「シェル」でケーキの周りを飾りますが、細くなったり、小さくなったり、均等にするのがむずかしい。イチゴ、桃、パイナップルとサンタとチョコを飾って完成した。参加した1年生は、「早く家に行って食べたい」と、お母さんに話していました。



【12/13 そば打ち教室 大崎市みやざわ交流】

俺のそば、できた

尾花沢産のそば「最上早生」を石臼で引いた粉は、手を触れると、指紋のあとがつくほど良質でした。

講師は、おばね蕎麦打ち愛好会の菅野駿さん、井上博良さん、柴崎良作さん、菅野祐賢さん、古藤拓さん。ポイントは、なんと言っても最初の水回し。そば粉に水分がなじまないと、後で切れてしまうのだそう。耳たぶ位の柔らかさがよいと教えてくれました。でも、そばを綿棒で伸ばしているのに時間がかかりすぎて乾燥してしまう。包丁と駒板を使って、生そばが完成。



お知らせ

出版書籍・古文書展

宮沢地区の作品展（宮沢地区公民館内）

開催日 令和6年2月23日(金)ー25日(日)

宮沢地区には宮沢の人が著した書籍が沢山あります。また、古文書、市文化財もあります。それらを一同に展示、紹介する初めての企画です。皆さんからの出展をお願い致します。

出展ご協力をお願い

- 宮沢地区の個人や団体が著作した出版物、書類など。
 - 著者が宮沢以外でも内容が主に宮沢に関するもの。
 - 伝説や口伝など記した珍しい書類または関連品。
- ・詳細は、地区公民館にお問い合わせ下さい。

主催 宮沢地区歴史保存会

宮沢地区公民館 22-0433

宮沢宝来吹矢隊の日程

吹矢練習会 ・毎週火曜日
13時30分～15時30分
1/9、16、23、30
場所：宮沢地区公民館

パッチワーク教室の日程

毎週木曜日 9時～15時
1/11、18、25、30 午前中
場所：宮沢地区公民館



◆宮沢地区新春を語る会◆

令和6年1月16日（火）
10時～14時 市長と意見交換等
徳良温泉「花笠の湯」送迎バス有り

宮沢地区の人口と世帯

(12/1 現在) (前月比)
男 787人 (-3)
女 769人 (-2)
計 1556人 (-5)
世帯数 582世帯 (+2)



「卯」から「辰」にバトンタッチ！

令和6年干支イルミネーション点灯式

翁塾主催のイルミネーション点灯式が、12月20日（水）午後3時、宮沢小5・6年生9名が参加して行われた。辰の図案を制作した6年山口真太郎君は、「一生懸命書いたので選んでもらえて嬉しかった。」と話しました。翁塾が毎年地域づくりのため企画しています。

■宮沢小学校前の県道付近 2月末まで開催■



宮沢女性の会研修会

★おっしゃれなしめ縄作り教室★

12月19日（火）ハナヤ花店の軽部美貴子さんを講師に迎え、おっしゃれなしめ縄作り教室が行われた。軽部さんより「手元の花との出会いは運命。活かしてあげて下さいね」とアドバイスをいただいた。出来上がるとそれぞれ個性が出て、「どれもステキ。」と声が上がっていた。作品は、そのまま乾燥させて2月のふれあい作品展に展示できるそうです。皆さんお楽しみにしてください。



風邪をひかないように

【一人ぐらし高齢者宅弁当宅配】

12月8日(金)、朝8時宮沢地区公民館に食生活改善推進協議会のメンバー9人が集合した。

高齢者の方が、食事の栄養バランスを取り、健康で生活できるように、毎年実施している弁当作りのボランティア活動。食改は、打合せと試作品を重ねて、調理本番に臨み、宅配は、民生児童委員から協力を戴きました。

宮沢小学校の児童からのメッセージ (一例)

1年生 げんきにしていますか。みやさわ小の1ねんせい、いろいろべんきょうをしています。水ぶんをしっかりとってくださいね。さむくなるので、かぜをひかないようにしてね。

2年生 雪道ですべらないようにしてください。

5年生 病気に気を付けて長生きしてください。屋根からの雪に気を付けてください。



寒さにまけるな

【輪投げ大会、老人クラブ主催】

12月5日(火)、地域交流センターで昨年より多い42名の参加者で開催された。本間会長から「これから雪が降り寒くなります。健康づくりと笑いで寒さを負けないようにしましょう」と、あいさつがありました。輪が1本投げられるごとに「いいぞ、あと3本入れろ。あと1本だ。やったあ。うそおー。全部入ったぞ。」緊張と笑いの中楽しんでいました。会長は、「来年は、パーフェクト賞のヤスさんに負けるな。」と、講評していました。

(成績)

第1位 阿部ヤスさん(丹生)パーフェクト賞

第2位 高橋泰子さん(丹生)

第3位 黒山ヤエさん(丹生)



平和がいかにありがたいか、伝える

【12月5日(火)宮沢地区歴史講演会】

地域交流センターで輪投げ大会に続き、歴史保存会顧問の三浦幹雄さんの「宮沢と戦争」と題して、講演会がスライドを使って約1時間開催された。三浦さんは、戦争のない平和な世の中を持続させるには、今何が必要か訴えた。スライドに昭和13年、自分の父が召集で出兵する時の写真。母に抱かれているが私(幹雄さん)で2歳、これが父と家族の永遠の別れとなった。父の顔は写真でしか知りません。父は30歳で戦死して、母は26歳で未亡人となったが実家に戻らず私を育ててくれた。昭和19年、日本の敗戦が確定になった頃、母にさらに悲劇が襲った。実家の第二子が戦死した。母は、自分が背負って子守りして育てた第二子を失った悲しみはどんなものだったのか。

インパール作戦としてビルマを占領した日本軍が、昭和19年1月に命令したインド東北部インパールへの侵攻作戦。険しい山岳地帯を進む計画は当初から補給面で問題を抱え、敗北した日本軍の参加兵力約10万人のうち、戦死者は約3万人、戦傷病者は約4万人とされる。撤退ルートでも死者が相次ぎ「白骨街道」と呼ばれた。庄内町(旧余目町)出身の佐藤幸徳中将は、司令官に惨状を告げ作戦の中止を進言するが聞いてもらえなかった。佐藤中将は部下の命を守ろうと独断で師団を撤退させた。自分の身を顧みない勇気ある行動は、数万人の兵士の命を救ったことで知られるようになった。旧余目町の佐藤中将のお墓に参拝した時、「つわものの生命救いし 決断に 君は問われし 抗命の責め」の碑文があった。

「過去の日本が歩んできた姿を知り、戦後生れが90%の現在、戦争の悲惨さを伝え、この子どもたちに平和をつなぐことが大切です。平和の尊さを若者、子どもたちに伝えましょう」と力強く話された。



満州と宮沢(8) 農業開拓団移民(原田竹松さんの手記その2)

原田さんは昭和11年妻を娶るため帰国し、細野のマツと結婚し同12年2人で渡満する。そして15町歩を耕作する。翌年には此長(部落長)となる。日系80名、満系900名、朝鮮系300名の開拓団である。終戦まで勤めた。その間、農地が個人分配となり20町歩を耕作した。

昭和14年には栄弥村(開拓団最大の村で有名)共励組合の監事となり引き揚げまで勤めた。

同19年頃になると30名いた団員は徴兵にとられ20年5月には男は4名ほどになる。

20年8月9日になると家族全員、男は18歳—45歳まで家より武装して牡丹江に集合の達しが来た。だが牡丹江は混乱し集合する所がなく50名を帰す事になり私もその一員となった。

帰途爆発があり帰れずハルピンに出る。そこの桃山小学校に一泊する。そこで天皇陛下の玉音ラジオ放送を聞き敗戦を知る。家族共北方鉄道でスイクワに出る。ここには飛行場があり、その格納庫に入った。そこにはすでに日本人1万5千人、朝鮮人5千人が居た。衛生が悪くジフテリアが流行し、医療設備も無く2-3歳の子どもはほとんど死亡した。

10月半ばここから何十日かけて鉄道で大連に着いた。大連実業学校を宿舎にして色々な職業に就いた。安い賃金で物価高、妻マツは衰弱した。大連ドックのロシア人ドック長宿舎のボイラー焚きに行った。大連山形県人会(150名ほど)の会長を引き受けて引き揚げに奔走した。

昭和21年11月、ようやく日本より貨物船が迎えに来た。4日かけて佐世保港に上陸した。

佐世保に検査手続き等で1週間滞在し、一路帰路に着いた。大石田町海谷の姉の家に2泊して同年12月20日我が家に辿り着いた。翌昭和23年3月、次女康子が死亡、5月実家が火災に遭う。7月には妻マツが済生館で死亡した。

10月に堀立小屋を建て3人の子ども(智恵子10歳、徳子6歳、仁2歳)と移る。同25年後妻を迎える。昭和44年、長男仁も成人したので山林4町歩を購入し、開田した。

原田さんは引き揚げ後、幾多の災難にもめげず頑張り、現在は長男仁さん夫婦が押切集落に移住し、さらに水田を購入し大稲作農家となっている。



終戦近くの弥栄村



文責 宮沢地区歴史保存会 三浦幹雄